

[認知症対応型共同生活介護用]

調査報告概要表

作成日 平成20年 8月 10日

【評価実施概要】

事業所番号	(※評価機関で記入) 4697200014
法人名	株式会社EGUCHI
事業所名	グループホーム あじさい
所在地	肝属郡東串良町池之原1998-1 (電話) 0994-63-5919
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂本町27-5前田ビル1F
訪問調査日	平成20年8月10日

【情報提供票より】(20年7月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 19 年 7 月 26 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 6 人, 非常勤 2 人, 常勤換算	7 人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	1 階建ての	1 階 ~	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	19,500 円	その他の経費(月額)	実費	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	250 円
	夕食	350 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(7月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名	
要介護1	3 名	要介護2	3 名			
要介護3	2 名	要介護4	0 名			
要介護5	0 名	要支援2	1 名			
年齢	平均	86 歳	最低	81 歳	最高	98 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	大隅鹿屋病院・吾平クリニック
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

鹿屋市に隣接する人口7,000人程の町に、昨年開設されたグループホームである。1ユニットで、家庭的な雰囲気であり、利用者のくつろいだ姿が見られる。運営者と管理者は運営推進会議や外部評価を通して、ありのままの状況を報告することにより、客観的で率直な意見をもらう良い機会ととらえ、結果を今後の運営や介護サービスの質の向上に活かしたいという前向きな気持ちを持っている。利用者の笑顔、和やかな会話からは、職員の利用者の気持ちを尊重した係わりが伺え、また、前日より準備し、時間を掛けてみんなで一から作ったピーナッツ豆腐のほっとする味が印象に残るホームである。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	昨年開設され外部評価は今回が初回となる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者の交替などで十分な準備ができなかったが、管理者が職員に外部評価の意義や項目について伝え、自己評価はおおむね管理者がまとめ、運営者と共に確認をした。この評価を良い機会と受け止め、より良いケアの実践に活かそうと考えている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	おおむね2ヶ月に1回の開催である。出席者は役場福祉課職員、地域包括支援センター、民生委員、地域住民、家族代表等である。利用者の様子や行事・研修の紹介、ヒヤリハット・事故報告についての忌憚のない意見など活発な意見交換が行われ、改善策が検討されている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	苦情相談窓口を玄関や配布する文書に明示している。住民代表と民生委員が第三者委員となっており、グループホームに意見等が伝えられ、結果は運営推進会議でも報告され、開かれたグループホームを目指している。十分に報告できなかった職員の異動などに関する情報は、今後定期的なホーム便りの発行などが考えられている。家族の理解を得るための努力をさらに続けていきたい。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	住宅地に建てられ、両隣との行き来がある。散歩の時には積極的に挨拶をして地域の方との関係作りに努めている。また、介護に関する相談には、話を聞くことで関係機関の紹介を行うなどの支援を行い、地域の高齢者の役に立てるような取り組みをしている。

調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「介護する人もされる人も心豊かに暮らせる地域社会を目指す」という地域で暮らすことを支えるホーム独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は入ってすぐのホールの壁に掲示されている。日々の利用者との係わりの中で、心豊かな暮らしが意識されているが、常に意識することは難しく、職員によっても理解は異なる。	○	理念を職員全員で振り返り、確認・見直しなどをすることで、職員のなかに再度意識付け、日々の振り返りでも話し合いを重ねることで理念の共有を図ることを期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩に出かけた時に挨拶を交わしたり、近所の方の訪問があつたりと日頃から関係作りを心がけている。また、地域住民の介護に関する相談を受けるなど専門的な知識を地域の中で活かしている。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	初めての外部評価である。管理者はミーティングの時間にビデオ等を利用して外部評価の意義や活用方法を職員に伝えた。この評価を良い機会と受け止めより良いケアの実践に活かそうと考えている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は行政関係、地域包括支援センター、民生委員、地域住民代表、家族代表などの参加で行われている。グループホームでの利用者の暮らし紹介やヒヤリハット事例報告及び検討など、開かれたホームを目指した運営が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	開設間もないこともあり、町役場の担当課との行き来は多く、相談する機会も多い。また、警察、裁判所、その他の公的施設と連携を持ち、利用者の安心した暮らしを確保するために一つひとつ課題に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問は少なくとも月1回以上であり、その機会を利用して利用者の日頃の状況を報告している。また、金銭管理状況も報告し出納簿に確認のサインを記入してもらっている。しかし、職員の異動報告は十分ではない。	○	今後は「たより」を毎月発行したい、との意向がある。「たより」により新しく加わった職員の紹介や、日頃の暮らしを生き生きと伝えることで家族の安心を確保することを期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用開始時に重要事項として苦情相談窓口の説明を行い、玄関には意見箱、苦情相談機関の掲示がある。運営推進会議でも意見や要望が出されており、対応について話し合い、結果が報告され運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は職員の異動が利用者及ぼす影響を良く理解しており、できるだけ少なくしたいと考えている。しかし、職員の定着は難しい。	○	異動が利用者に大きな影響を及ぼす事がないように、利用者及び家族への紹介をなるべく速やかに行うと同時に、新規の職員も徐々にグループホームに馴染めるように、勤務調整や研修計画などの工夫が望まれる。
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員研修の大切さを十分理解しており、できるだけ施設外の研修を紹介している。また、毎月ミーティング後に勉強会を開き、サービスの質の向上に努めている。だが、研修計画を立て、職員の経験に応じた研修とはなっていない。	○	新規採用の職員は仕事に慣れるまではできるだけ速やかに、現任の職員は経験によって段階的な研修を受けることができるような研修計画を立て、職員一人ひとりが向上心を持って働き続けられる取り組みを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入し研修会への参加をしたり、他のグループホームと交流をすることで学ぶ機会としている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用を予定している方の所に面接に行くとともに、本人や家族にホームを訪問してもらい、徐々に慣れながら利用を開始してもらっている。しかし、やむを得ず突然の入居になる利用者には、家族や知り合いの面会をお願いする等、安心してホームの暮らしに慣れていただくような工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事の支度を一緒にしたり、明るい話題を提供してもらったり、利用者同士の助け合いを見たりして、一方的に支えるだけでなく支えられる関係ができています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始時の情報収集から本人や家族の意向を把握するとともに、入居中の会話や日々の介護の記録から希望を拾い出している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、本人や家族の意向を基にケアカンファレンスで職員から出された意見や、受診時の主治医の意見を反映して立てている。しかし、作成された介護計画が職員に十分に意識されているとはいえない。	○	ケアカンファレンスで介護計画の意義や必要性について再度確認するとともに、具体的なサービスのみでなく、利用者の意向や課題、目標を日々の記録に連動させる工夫を行うことにより、職員の気づきを引き出すことを期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画作成担当者は毎月モニタリングで計画の実施状況を確認し、3～6ヶ月ごとには評価を行っている。また、認定期間が終了する時には計画を見直し、現状に即した新しい計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診や入院中の係わりなど利用者の状況に応じ柔軟に対応している。また、地域の高齢者の介護保険関係の相談に乗るなど、地域に貢献している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を一方向的に指定する事はなく、利用者や家族の意向で決められている。受診には職員が同行し、医師や病院職員との情報のやり取りを行いながら利用者が適切な医療を受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	管理者は重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い時期に利用者とは話し合う機会をもち、終末期は医療機関と連携し、対応するようにしている。しかし、事業所としての方針を運営者や職員全員で話し合うことはまだ行われず、個々の対応となっている。	○	開設して間もない事業所だが、事業所の運営方針として重度化した場合や終末期のあり方について、本人や家族の意向を尊重しながら、職員全員が落ち着いて対応できるような体制づくりが望まれる。
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の保護規程について、利用者や職員が目につく場所に掲示するとともに、利用開始時の文書にも明示している。記録物は事務室に保管され、外来者の目に触れないように気をつけている。また、職員は日常生活の支援の際に、利用者の誇りやプライバシーを損ねることがないように気をつけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、利用者の希望や体調に合わせて、外出の支援をしたり、嗜好品を楽しんでもらうなど、その人らしい暮らしを支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い物に行ったり、食事作りを利用者とともに楽しむ事は少ないが、職員も同じ食事を一緒に食べ、会話を楽しみ、下ごしらえや下膳などできる範囲で後片付けに参加してもらいながら共同生活を営んでいるようすが伺える。また、外食も取り入れ、利用者が楽しめる工夫を行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週3回の入浴だが、希望があった時や保清の必要がある時にはいつでもシャワー浴が行える。また、入浴の機会が少なくなりがちな方には、タイミングを見たり、声掛けを工夫して清潔が保てるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日頃の会話や生活歴などから利用者の能力に応じた役割や楽しみごとを見つけ、感謝の気持ちを伝えることで毎日が張りのあるものとなるように支援している。また、買い物は家族と相談の上、できるだけ自分で支払いができるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や散歩、ドライブなど希望される方にはなるべく外出できるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者や管理者及び職員は鍵をかけないケアを望んでいるが、安全管理上、玄関や居室の窓に鍵をかけざるを得ない状況である。現在、運営推進会議や消防署に情報提供を行い危険の回避に努めるとともに、職員の認識を高め、鍵をかけないケアを目指している。	○	職員全員が鍵をかけない暮らしの大切さについて再度認識し、鍵をかけないための方法を検討していただきたい。家族への説明を繰り返し、地域への情報提供の協力を依頼するなど、鍵をかけない自由な暮らしを提供するために引き続き工夫をすることが求められる。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昼・夜を想定した避難訓練を実施し、8月末に救急訓練も予定しているが、非常時の水の準備などを現在は必要性を感じないため、特別なことは行っていない。今後は地域の方と協力して避難訓練を行いたいとの意向がある。	○	備品や食品等の準備も含めたマニュアルの整備、以前の災害事例を用いた研修の計画、事業所の意向である、地域の方たちとの訓練にも期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月1回の体重測定や毎日の食事を食べた量の把握などにより、一人ひとりの状態を把握している。水分量は大まかに把握し、健康上の理由で細かく把握する必要のある方のみ記録をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは広く、一角には和室があり思い思いにくつろげる。その隣にはキッチンが並び、食事の準備や後片付けの時に食器の音や水の音、料理のにおいなどを感ずることができる。また、テーブルには季節の花が飾られ、季節感が感じられる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはそれぞれの家具や雑貨が持ち込まれ、部屋ごとに雰囲気が違っている。また、畳を敷いた居室も用意され、希望に応じられるようになっている。		